

平成 28（2016）年度第 1 回門真市文化芸術振興審議会 会議録

会議名称	平成28（2016）年度第 1 回門真市文化芸術振興審議会
開催日時	平成28（2016）年12月19日（月）午後 2 時から午後 3 時45分まで
開催場所	門真市民文化会館ルミエールホール 会議室 1
出席者	<p>（委員） 清澤副会長、登委員、早川委員、木ノ下委員</p> <p style="text-align: right;">【出席人数 4 人／全 5 人中】</p> <p>（事務局） 柴田生涯学習部長、牧菌生涯学習課長、前出課長補佐 藤田副参事、浦主任、谷本係員、吉田係員</p> <p>（指定管理者） 特定非営利活動法人トイボックス 栗田代表理事 門真市民文化会館・門真市立市民交流会館 西村館長 アクティオ株式会社 山本門真市民プラザ長、 実島生涯学習センター長</p>
議題 (内 容)	・ルミエールホールの事業について
傍聴者数	0 人
担当部署	<p>（担当課名） 生涯学習部 生涯学習課</p> <p>（電 話） 06-6902-7197（直通）</p>

【事務局】

それでは、定刻になりましたので、審議会を開催したいと存じます。  
開会に先立ちまして、お手元の資料の確認をいたします。（資料確認）  
以上でございます。資料に不足はございませんか。  
なお、朝倉会長は本日ご欠席の連絡をいただいております。  
それでは、以降の進行を清澤副会長にお願いしたいと存じます。よろしくお願いたします。

【清澤副会長】

それでは、平成28（2016）年度第 1 回門真市文化芸術振興審議会を開催いたします。  
今日は朝倉会長がご欠席ということで、副会長の私が進めさせていただきます。  
それでは、本日の案件に移らせていただきます。  
まず、案件 1 「ルミエールホールの事業」について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

それでは、案件 1 について、事務局よりご説明いたします。  
これまで年 1 回の会議で進捗確認や事業報告を行ってまいりましたが、昨年度に門真市文化芸術振興基本方針の改定に向けてのスケジュールを確認し、それに繋がることをしようと話し合われました。  
それらを受けて、今年度、朝倉会長とどのような内容で審議会を行うか相談させていただきましたところ、今後、基本方針の見直しを行う前に、基本方針に掲げる基本施策などの推進状況の検証をしっかりと行っていくべきであること、その前段として、市内の文化芸術活動の振興で大きな役割を果たす指定管理者を議論に加えて、指定管理者がどのよう

## 平成 28（2016）年度第 1 回門真市文化芸術振興審議会 会議録

な文化芸術事業を行っているか検証するとともに、よりよい事業が展開されるよう委員の見識を活かした指導・助言を行う機会を設けることになりました。

今回はルミエールホール、次回は門真市民プラザにて、それぞれの指定管理者の事業を検証いただきたいと存じます。

本日の流れといたしましては、事務局からルミエールホールの沿革をご説明するとともに、ルミエールホールの指定管理者から事業の報告をしていただきます。その後、委員の皆様からのご質問や意見交換などをお願いいたします。

まず、ルミエールホールの指定管理者をご紹介します。

平成21（2009）年度からルミエールホール及び中塚荘の管理を行っている特定非営利活動法人トイボックスの栗田代表理事です。そして、両館の館長を務める西村館長です。

次に、今年度から門真市民プラザ、公民館、文化会館の管理を行っているアクティオ株式会社の本門真市民プラザ長です。そして、市民プラザ内にある生涯学習センター長を務める実島センター長です。

本日はよろしく願いいたします。

### 【事務局】

門真市文化芸術振興審議会の趣旨等について、ここで改めて確認をしておきたいと思えます。

まず、門真市では文化芸術振興条例を定めておきまして、第 8 条で文化芸術振興審議会のことについて明記をしております。そこでは審議会の役割として「基本方針の策定及び変更」、「その他文化芸術に関する重要事項の調査審議」の 2 つが挙げられております。また、条例に基づいて策定された基本方針の中で「文化芸術施策の進行状況の管理」が挙げられております。「基本方針の変更」、「重要事項の調査審議」、「文化芸術振興の推進状況の進行管理」の 3 つが審議会の役割として置かれていることを改めて確認させていただきます。

現在の委員におかれましては、平成27（2015）年度と28（2016）年度の2年間の任期であるため、今年度は12月と1月の2回の会議をしたところで任期満了という状況であることも併せてお伝えいたします。

審議会の趣旨につきましては以上です。

### 【清澤副会長】

間が空いている方もあるだろうということで、改めて確認させていただきました。

木ノ下委員は初めてでしょうか。もしよろしければ自己紹介をお願いします。

### 【木ノ下委員】

大阪大学の木ノ下と申します。委員就任は去年からですが日程がなかなか合わず、今日が初めての参加となります。ルミエールホールには、実は以前の指定管理者である大阪ガスさんのグループにも所属していたこともありまして、またそれとは別件で大阪府下の官庁の方々を対象としたレクチャーなどで、数度お伺いしたことがあります。それを含

めて文化振興に関する事項について何かお役に立てればと思っております。よろしく願いいたします。

【清澤副会長】

先ほども申し上げたのですが、会長と事務局のほうでご相談の上で、今回は特にルミエールを中心に事業活動のご報告をいただくということになっております。その趣旨でお進めいただけたらと思います。

【事務局】

それでは、次に、ルミエールホールの沿革についてご説明いたします。資料 1 をご覧ください。

ルミエールホールの開館前から、文化会館や公民館を中心に門真市文化祭や発表会を通して創作、発表活動などが活発に行われておりましたが、市民からの強い要望で、市民に優れた文化・芸術に接する機会を提供するとともに、市民自らの文化活動を促し、もって市民の交流と文化の向上に寄与することを目的として、約70億円をかけて平成 5（1993）年に門真市民文化会館ルミエールホールが設置されました。

このルミエールホールには、北河内で 3 番目に多い1,128席をもつ大ホールや252席をもつ小ホール、レセプションホール、展示ホール、その他研修室や会議室、和室など10の諸室が備えられました。「ルミエール」という言葉は、フランス語で「光」あるいは、「知識・知性」という意味をもち、広く「文明・文化」の意味をもっています。

平成 4（1992）年に財団法人門真市文化振興事業団を設立したあと、ここを拠点に事業を展開し、文化芸術振興行政の中核的な役割を担ってきました。

指定管理者制度が導入された平成18（2006）年 9 月からは、施設の管理運営は指定管理者が、文化施策の実施は事業団が行うようになりました。

しかし、市民主体の公益的な活動が重視されるようになり、市の深刻な財政状況も背景に事業団のあり方が見直された結果、文化芸術振興の基盤づくりに一定の役割を果たしたとして、平成21（2009）年 3 月をもって事業団は解散されました。

平成21（2009）年度からは指定管理者として特定非営利活動法人トイボックスを指定し、施設の管理運営と併せて文化芸術事業を行うようになり、現在は 2 期目の 3 年目でございます。

さて、文化事業について、それぞれの団体がどのようなものを展開してきたかを簡単にご説明いたします。

事業団ではクラシックをはじめとする様々なコンサート、伝統芸能、映画など幅広い文化芸術事業を市民に提供するかたわら、合唱フェスティバルや吹奏楽フェスティバル、市民ミュージカルなど市民主体の文化芸術活動の共催、京阪沿線のホールと共同で企画した若手演奏家が出演するエクセレントコンサート、若手の舞台制作者育成事業などを行い、市民文化芸術の普及・活動支援、人材支援に寄与し、また、上方落語の会「るみえーる亭」など、地域に親しまれる事業が生まれました。

トイボックスでは、自主事業では若手アーティストの育成とともに、気楽に足を運んで

音楽が聴けるようにロビーコンサートを毎月第 4 日曜日に開催したり、アーティストが市内の小学校へ訪問し、楽器の面白さを教えることで、将来の担い手づくりや子どもたちの情操を育てるアウトリーチなど、音楽に親しむ事業を展開しております。また、門真手作り市のように、アーティストと交流しながら作品を鑑賞したり触れたりするなど、地域との交流を重視した事業を展開しています。

この他、指定事業や委託事業では、事業団が行っていた文化事業を引き継いで行っているものや、本市の委託事業としてまちの中で音楽コンサートを開催する「まちかど・まちなかコンサート」があります。

利用者の声として、当時を知る方から話を聞いたところ、「事業団が実施していたワンコインコンサートでは、大阪市など大きな都市で行われているコンサートを地元で気軽に聴くことができた。」また、「現在では、ロビーコンサートや門真手作り市のようにアーティストと交流できる機会が生まれて、門真に賑わいが出てきた」という声をいただきました。

以上、簡単ではありますが、ルミエールホールの沿革について説明を終わらせていただきます。

#### 【清澤副会長】

ありがとうございました。ルミエールとしての基本方針を大体ご説明いただいたのですが、続きまして、具体的なところをトイボックスよりご説明いただいてもよろしいでしょうか。

#### 【トイボックス】

ルミエールホールの事業についてということですが、私どもはNPO法人でございます。

これだけ大きなホールをNPO法人がお預かりさせていただくというのは割と珍しいのではないかと思います。どんなNPO法人かという、「子ども」と「地域」をテーマにしておりまして、子育て支援や不登校支援、まちづくりといったことをやっている団体です。

我々がルミエールホールで事業を実施していく中で一番根本となるテーマというのは「門真市を文化消費の地から、文化創造の地へ変えていく一助を担いたい」ということでした。最初の平成21(2009)年にこちらで業務を開始させていただいたときに、地域の方々から、「よくこんな文化不毛の地でこんなふうな事業をするね」というようなお声をたくさんいただきました。それから8年目になりまして、音楽協会や文化協会、それからアートリーグなどたくさんの方と協働連携をさせていただき、また助けていただきながら、門真市に対する評価というのが変わりつつあるのではないかなという感触を持っています。

なぜ文化消費の地から文化創造の地へ変えたいかという、ここで文化消費の地と言っているのは、例えば、先ほど事業団さんの事業のご紹介がありましたが、昔は鑑賞型の事業、その中でも東京のプロモーターさんから買って実施している事業というのが結構ありました。それはそれでいい時代だったと思います。

一方で、人口がどんどん減少していて、門真市に限らずどの自治体も、財政難でどうやってまちを維持していこうかと言っている中で、どうやって文化というものをただ買って

きて消費するという構造から、門真で発信する、例えば、門真でアーティストが育って、その人がずっと門真に住んでくれて将来門真に市民税を払ってくれるという構造に変えられるかということにチャレンジしたいと思っています。

また、門真市さんの相対的貧困率は結構高いのですが、その中で、文化にお金を使う方というのが非常に少ないということをこの 8 年間で実感しています。0 円であればたくさんイベントに人が来てくれるけれども、ワンコインであってもお金がかかると、こちらとしてはそれに見合う内容だと思ってもガクッと人が減ってしまうというような現実があります。その中でアーティストの人が飯を食べていくために、コンサートをやる、作品を買ってもらうなど、そういうことにお金を使う門真の人を増やしていかなければいけないという考えを持っています。

では、具体的に事業をどうやっていくのか、3 つ考えています。

まずは、理念としてのダイバーシティ、もしくはダイバーシティ&インクルージョンです。社会包摂と言われることですが、多様な人材の参加の関係をつくっていく。子どもから高齢者まで、それから国籍や障がいの有無にとらわれない形でいろんな方が参加して事業をつくっていく。そのようなことを仕掛けるということが必要になるのではないかとというのが 1 点目です。

それから 2 点目、手法としてスモールステップと書かせていただいておりますけれども、じゃあどうやって参加させるのかといったときに、ただ「参加してください」というのではなく、いろんな事業や仕組みを組み合わせることで段階をつくってあげていく。最初は気軽に来られる、出かけられない人にはこちらから行ってあげるといった形の中できっかけをつくって、段階をつくってあげていくことで、作り手側もそして買い手側も両方の人材をつくっていききたいなと思っています。

3 点目は、コレクティブ・インパクトという形で、成果というふうに書かせていただいております。これはいろんな主体、行政やアーティストさんや民間などが一緒になって他の地域に対してインパクトのある、門真市ってすごいと思われるような成果を上げていきたいという考え方です。

それらに基づいていろんな形の事業をやっております。厳密に分類できるわけではありませんが、例えば、身近に芸術文化を感じられる事業としてのロビーコンサートやロビー展示、多様な市民の参加の機会を作っていく事業として文化祭やコーラスフェスティバルや手作り市など、子どもたちにアーティストと触れ合う機会を提供する事業として、今年門真市内の 14 小学校のうち 12 校に対して、音楽のアウトリーチを行っています。

また、アーティストの育成・活動支援として、ジュニアオーケストラやジュニアコーラスの育成、それから劇団の支援として若手の壺劇屋という劇団の支援、それから高校演劇の支援、箕面市とこちらとで 1 年おきに高校の演劇大会を開催するといった支援を行っています。このように様々なイベントを行っています。

さて、実施事業について、ご紹介いたします。

まず、吹奏楽フェスティバルは長年やっている事業でございます。中学生から社会人までの団体が参加しています。詳しくはお手元の事業シートに細かく数値とコメントを書いておりますのでご覧ください。それぞれに課題がありますが、ひとつずつご説明するとあ

つという間に時間が経ってしまうので、まずは概要ということでご案内させていただきます。

次に、コーラスフェスティバルですが、こちらに関しては、元々割とクローズな実行委員会だったのですが、この 8 年間の中で、自分たちでお客さんを集めようということで、約 200 人しか集客できなかったイベントが約 600~700 人集まるようになるほど皆さんのお力で変わってきました。

次に、門真市文化祭ですが、これも市民の実行委員会のお手伝いをするという形で実施しています。ダンスフェスティバル、音楽祭、創作展、芸能祭という 4 セクションで毎年 10 月末から 11 月に市民の方の発表の場としての機能を果たしています。

それからアウトリーチですね。門真市は先ほど相対的貧困の話がありましたけれども、楽器の会社の方に何うと、周りに比べて半分くらいしかピアノなどを習う子がいないということで、現在、市内の小学 4 年生に音楽のアウトリーチ事業を行っています。

我々の夢としては、まずは小学 4 年生、それから中学 2 年生で実施しつつ、市内の子どもたちに対して、年に 2 回、学校にこういう音楽が来るというような事業を完成させたいなと思っております。アウトリーチに興味を持った子が安く参加できるようなカルチャースクールもホールでやっています。まだまだ子どもたちの参加人数としてはそんなに多くないですが、音楽協会さんと連携して、将来オーケストラを作りたいなということで、現在、ジュニアストリングスをつくっています。

ジュニアコーラスもあってコーラスフェスティバルなどにも参加をしたり、ピアノ教室の子のためにピアノ発表会をしたりといった活動もしています。

次に、サマーアートフェスティバルは、毎年 8 月にアーティストの方と一緒に連携して行っています。京阪沿線を中心にアーティストを募集しているのですが、20 名ほどアーティストの方がやってきてくれて、子どもたちにさまざまな画材や材料での創作活動の体験をしてもらうという趣旨です。毎年 200~300 人くらい親子などが参加してくれています。

そして、中塚荘でやっている手作り市ですね。現在は年に 2 回程度実施しております、市民の方が手作りの作品を出展し、それを近隣、沿線の方々が楽しみに来ていただくというような趣旨のイベントです。

それから、ルミエールホールで日常的に文化芸術を楽しんでいただくために、現在、月に 1 回、ロビー展示やロビーコンサートというものを実施しています。

さて、いろいろと紹介した中で、鑑賞事業は全然やらないのかということ、やっちはいるのですが、例えば、ポップスや演歌、クラシックのコンサートなどプロや企業が開催するものに関しては、条件次第で共催という形でご協力し、税金からの持ち出しというのは出さない形の中でやっています。

実際に開催しても観に来る門真市民の比率というのはそう高くないと伺っておりますので、税金を使ってやるべきことかという議論は長年うちの中でもあります。

その他の市民の方が行う鑑賞型事業に関しては、練習会場の提供などの形でのご協力を進めさせていただいているところです。

駆け足ではありますが、色々のご指導、ご質問いただければと思います。よろしく願いいたします。

【清澤副会長】

今回は、特にトイボックスでご担当されているルミエールホールや中塚荘の事業についてご紹介いただきました。

まず市のほうからの趣旨説明、それからホールの具体的な事業をご説明いただきましたが、まずこの辺りについて何かご意見あるいはご質問等ございますでしょうか。

登委員いかがですか。

【登委員】

作り手としてはすごく素敵なことだと思います。続けてほしいと思います。

【清澤副会長】

一緒に活動されたことはありますか。

【登委員】

あります。今日も、先日展示会に出展した作品を返していただきました。

【清澤副会長】

早川委員どうでしょうか。

【早川委員】

いろいろ拝見いたしますと、中身も盛りだくさんでメニューの細かい仕分けがあって、それぞれに皆さん活躍していらっしゃるのだろうなということは推察できるのですが、事業シートの中身を拝見すると、課題として「参加者が増えること」、それから「来場者が増えること」が書かれています。それが理想ではあるのですが、先ほどお話にもありましたように、人口はどこの自治体も減っていますから、参加者が減っていくというのは人口が減っているの、致し方の無い部分が厳然としてあるわけです。そののところをどうやって盛り上げていけばいいのかなと、拝見していて思いました。

【清澤副会長】

利用率はかなり上がっていますよね。かなり事業を展開させているということだと思いますけれども。

【早川委員】

そうですね、私はこの中でアウトリーチはなかなか光物だなと受け止めました。ルミエールホールに来られない住民がほんとにたくさんいらっしゃると思いますので、続けていただけたらいいなと思います。

あと、音楽に関するメニューも盛りだくさんですね。先ほどのお話にも音楽祭がありましたが、音楽祭というタイトルであれば、例えば、コーラスであれ吹奏楽であれ全部入っ

てくると思うのですね。けれど、そういうもののフェスティバルがそれぞれあって、それだけでなく音楽祭もあるといったら、なんだか不明確ではないかと思います。

ひとつのご提案なのですけれども、どうやって進めていくかというのは皆様方が編み出してくださったらいいなと思うのですが、例えば、吹奏楽フェスティバルの金賞者だけが音楽祭に出られるとか、コーラスフェスティバルの優勝者だけが音楽祭に出られるとかいう形もありかなとは思いました。

#### 【トイボックス】

今、ご意見を何点かいただいたのですけれども、まず前半の部分について、利用率というのは確かに上がってはいるのですけれども、こちらにつきましては、老朽化による工事やメンテナンスで実際に提供できるコマが減っているといったような事情もございます。

それから、文化事業のカルチャースクールに所属している人が、練習をしたいときに自由に空いている部屋を使えるという仕組みを取っているのです、それで増加されている部分はあるのかなと思っています。

音楽祭等々の課題というのは、ご指摘のとおりあると思っておりまして、まず、春にコーラスフェスティバルと吹奏楽フェスティバルがございます。

コーラスは市民団体さんが中心、吹奏楽は6～7割くらいが中学生という催し物です。

それから、秋に文化祭がございます、文化祭の中に音楽祭という部門があるのですが、実は文化祭4部門のうちでは活気がなく、参加団体が少なくなっています。2年ほど前までは、コーラスと吹奏楽の団体だけその音楽祭に出ていました。

写真にありますような少人数のバンドなど、そういったものが参加してこなかったのです。また、芸能祭と音楽祭のどちらに出るのかという仕切りが明確になってなかったという課題がありました。

両方とも指定事業になっていまして、我々が指定管理者になる以前から門真市のほうで開催されていて、継続して開催しているものです。整理の必要性というのはずっと議論になっているのですが、一方で、市民の方の中ではコーラスや吹奏楽がもっともっと門真で元気になってほしいというご意見や、小さな団体ですが出演機会がルミエールホールでたくさんあったほうが嬉しいというご意見が直接あったりして、なかなか頭を悩ませているところです。

コーラスや吹奏楽に関しては、声掛けをして、コーラスでようやく13～14団体が参加してくれるまでに成長したというところなので、正直まだまだ層は厚くありません。審査員の方がいてくださってという形は是非やりたいとは思っています。

それともう一つ、人口減少の話に関してですが、シートのほうでも「参加者数を増やす」というようなことを書かせていただいているのが多々ありまして、ご指摘のとおり確かに難しいなと思っています。

一方で、例えば市民の方の実行委員会中心にやっているものは、実行委員のメンバーは出演者さんの団体から出られているので、舞台上に上がればよいということで、自分たちで人を連れてこようとする意識が弱い方が多いというのが数年前に感じたことです。

やはり自分たちで広めるということに参加をしていただきたいなという思いもこめて参

加者増について書いている部分があります。その他、事業シートの一番後ろに広報というページがありますが、我々の一番弱いところが実は広報ですね。特にこういった考え方、それからこういう事業をやったよという事後のパブリシティなどそういったところがまだまだできていないと反省しております。

**【清澤副会長】**

ありがとうございました。

木ノ下委員はいかがでしょうか。何か自由にご意見をどうぞ。

**【木ノ下委員】**

8年間指定管理者としてやってみて、これらの事業に参加している人たちの年齢層やその割合はどれくらいなのでしょう。

**【トイボックス】**

そうですね、一番分かりやすいのが中塚荘でやっている手作り市です。手作り市に関しては、平成21(2009)年の7月に第1回をやっておりますので、毎年いろいろと工夫をしながら開催しております。始めたばかりの頃は10ブース足らずだったかと思いますが、来場者はほとんど高齢者でした。これを、いろんなことを繰り返しながら若いアーティストの方にお声掛けをして参加いただきながら実施した結果、現在では子どもたち、若いお父さんお母さん、それからもちろん年配の方まで幅広くご参加いただけるようになり、世代間のバランスが取れてきたかなと思っております。

他の事業に関しましては、例えば、コーラスフェスティバルであれば、やはり子どもたちに参加してほしいよねというようなお声が実行委員さんの間でありまして、それでワークショップの募集をして子どもたちに参加しませんかということをやったりしました。それが今のジュニアコーラスです。昔、私は直接知らないのですけれども、少年少女合唱団というのがルミエールホールにあったということで、それを復活させたいよねというお声もいただいて、今なんとかジュニアコーラスという形で毎年できている形になってきたかなと思っております。

**【木ノ下委員】**

通常の貸館の利用では、どういう層が借りてらっしゃいますか。

**【トイボックス】**

やはり60代や70代が多いのと、あと最近増えてきているのは企業の会議などの利用です。

**【木ノ下委員】**

市からの事業費というのはどうなっているのですか。

**【トイボックス】**

前の契約と今の契約とはちょっと違うのですけれども、前の契約の場合は自主事業費というのは指定管理料の中には含まれていないという解釈でしたので、我々のほうで益金をプールする形でやらせていただいているということがありますね。

**【木ノ下委員】**

この資料の中の会場費っていうのはどういう位置づけですか。

**【トイボックス】**

指定管理者は指定管理者に対して会場費の支払いをしています。我々が使うときは会場費も支払って、歳入のほうでも計上しているという形になります。

**【木ノ下委員】**

指定管理者は現在トイボックスだと思いますが、本来、文化芸術振興は市の事業だと思うのですね。継続して現場が頑張っただけで良くなればなるほど、その状況は上がっていくと思うのですが、それを市がどのように考えて位置づけるかということのほうに問題があるのではと思っています。

ルミエールホールについては事業としてすごく頑張ってもらっていますし、ある程度市民活動を中心としているという論点がすごくはっきりとした事業体かと思っていますので、よく分かりました。むしろルミエールホール云々よりも指定管理者制度の位置づけを行政がどう考えるのかということを少し議論したほうがいいのではないのでしょうか。事業の質とか内容に関しては、それによりけりだと思うのですね。

今、市民活動を一生懸命に増やそうとしてもらっちゃって、市民ユーザー型の事業体としてルミエールを活用していこうとする。こういうホールというのは、恐らくバブルの崩壊の前後にどこにでもできて、維持管理の費用が大きくなる中で、指定管理者がどうにか頑張っただけでやっただけで終わってしまうと思うのですけれども、行政として、以後ここをどう活用していくのか、あるいは指定管理者さんと一緒に何を目指していくのかということのビジョンについてお伺いしたいです。

**【清澤副会長】**

どうでしょうか、元々事業団があり、それが解散して指定管理という形になっていますよね。それで行政のほうとしてどう関わっておられるのか、例えば指定管理者の評価や予算についても補助が入っているのかいないのか、その辺も一度簡単に聞かせていただいたらどうかと思います。

**【事務局】**

教育委員会といたしましてはモニタリングという制度を導入しております、指定管理者の 1 年間の事業報告を毎年春ごろに行っていただいて、それに対する評価を公表しています。

トイボックスにおかれましては、前半は B 評価が多かったものの、近年では A 評価、期

待以上の成果を出していただいているという形で評価はさせていただいております、市民の皆さんとのいろいろな連携事業が増加していること、アウトリーチ活動がかなり学校などに浸透してきたこと、利用件数が上昇してきていること、こういうところから現場の活動はよくやっておられるという評価をしております。

指定管理者制度の導入自体は、平成18（2006）年度から10年間経ってどうかというところであるのですが、こうやって事業団時代から利用件数が増加しており、市民の声を聞いていても評価する声を多く聞くことから、制度導入自体の成果ということも言えるのではないかなと思います。

こうやって民の活力を導入したことによって、例えば事業団をそのまま残す、あるいは直営に近い形でやっていた場合よりも、上手くいったのではないかなというところがありますし、門真市民プラザ・公民館・文化会館についても、ルミエールホールの成果を踏まえて、制度導入を決定して指定管理施設の拡大を図ったというところがありましたので、この制度の導入に関しては、門真市では一定上手くいっているのではないかと考えております。

**【清澤副会長】**

モニタリングというものはよく分かるのですが、例えば、年間の委託みたいなものですね、これは費用的なものだろうと思うのですが、その枠の中でトイボックスとして工夫しながら、自主事業と貸館事業を一緒にやっておられるかと思うのですが、全体的には、市のほうからは何かそういう予算といいますか、例えばトイボックスの年度予算の要望みたいなものを勘案しながら決めておられるというようなことになるのですか。

**【事務局】**

門真市の支出といたしましては、まず指定管理料というものがあります。この指定管理料は指定管理者の選定のときに先方からこれだけのお金でやりますよということをしていただいて、選定された指定管理者に指定管理料をお支払いしています。その指定管理料の総額は、募集ごとに事業を追加することによって変動しているのですが、合計で見ると概ねだんだん下がってきています。1期目よりも2期目のほうが、様々な事業が増えているので単純に比較すると上がっているところがあるのですが、様々な経営努力で下げてきておられると思います。その他に予算といたしましては、この施設の修繕費や工事費などがあります。これは老朽化などにより指定管理者の責めによらない修繕が発生しますので、そういったところは原則として指定管理者の予算の中でやっていただきつつも、長い時間がかかるものや大きなものでなかなか指定管理者の負担に耐えられないようなところは門真市と協議をしたうえで、門真市が修繕費を計上して修繕や工事をしています。

**【清澤副会長】**

インフラとか基本的な分はそういうことになるんでしょうけれどもね。

**【木ノ下委員】**

評価の視点として、極端な言い方をすると市民活動としての評価と文化芸術振興としての評価の 2 つがあると思うのですが、それに関して事業主体である門真市がどう考えているのか、指定管理者にお任せではなく、市が文化振興という観点で今後この事業にどのように取り組んでいくのか、ビジョンや指針があるのかをお聞かせいただきたいです。

**【トイボックス】**

一点だけよろしいでしょうか。

我々は過去にいくつかの自治体の指定管理者をやらせていただきました。東大阪市や橿原市では同じような文化ホールの運営管理をしていますが、大きく違うのはアウトリーチの事業です。このアウトリーチの事業は、それらの市では指定管理者の事業として認められませんでした。建物の外の事業は指定管理者の事業ではないということがその市の考え方だったのです。しかし、門真市の場合は、全体の文化振興に役立つことだからということでアウトリーチの事業を指定管理者の業務としてお認めいただき、それに加えて、まちかど・まちなかコンサートという、門真市のあちこちの小さなスペースで音楽をやっていく委託事業をやらせていただいています。そういった点では広い視点を持ってやっていただけなのかと思っています。

**【清澤副会長】**

基本的にはこういうシートがありますね、ここにいわゆる文化芸術振興、門真市としてこういう方向で持っていこうということを、テーマを分けて一応設定はしてあるわけですね。それぞれの項目についての文化事業にはこういうものがあって、その辺を見直しといえますか、検証していこうというのがこの審議会の立場です。その中でさらにこれを市としてもちょっと噛み砕いた言葉でやっているというのが、例えば、「音楽のあふれるまち」とかそういうことですね。そういう大まかな方針はある程度は謳われているということだろうと思います。

**【事務局】**

門真市の文化芸術の評価に関しては、文化芸術を司っている門真市教育委員会の生涯学習課で基本方針の進行状況を管理しています。また、この基本方針において進行状況の管理というミッションはこの審議会にありますので、これを報告してご意見をいただくことによって文化芸術事業全体の進行管理を図っています。

一方で、指定管理者の事業の管理は、個々の事業について評価をしたり評価基準を作っているということではなく、個々の事業の際に、職員がその都度打ち合わせをして、モニタリングによって、総合的な評価を与えているという仕組みになっています。

**【清澤副会長】**

具体的なやり方はそういうことだろうと思いますが、門真市全体の文化行政みたいなものですね、その基本的な方針だとか、あるいはそういうものはどういうふうに進められているのかというようなあたりですね。そういうことをもう少し理解したいという

ことだろうと思うのですけれども。

**【木ノ下委員】**

こういう一事業だけで文化事業が象徴できるとは思えないので、要はこの大分類の中の 5 つの項目を挙げてらっしゃる中でそれぞれの施策名があつてのことだと思ふのですけれども。

**【事務局】**

平成19（2007）年に文化芸術振興条例を作りまして、その条例を実際にどのように進めていくかということで基本方針を作ったのですが、そのときに「協働による新しい文化活動の推進」、それから「文化芸術にふれられる場づくり」、「文化芸術の担い手づくり」、この3つの方向性で進んでいこうということになりました。計画ができれば早速取りかかっていきたいと思いますということで、市民と担当職員が公民協働の文化芸術振興会議を立ち上げて、愛称がアートリーグ門真というのですが、具体的にこの3つを実現するためにどうしていったらいいかということをお話し合つて、まず音楽に焦点を当てていきたいと思いますということで、「音楽と活気のあふれるまちづくり事業」として「まちかど・まちなかコンサート」を考えました。

また、市民の第九コンサートを市制施行50周年記念のときに実施したのですが、それが好評でしたので、今度はそれを継続してやっていこうということで市民主体の実行委員会が立ち上がり、公民協働事業ということで市役所の職員も入ってやっております。

指定管理者との協働や、市民の方々との協働による実行委員会などでまず音楽を皮切りにやりましたが、アートというと音楽だけではありませんので、アートリーグ門真では、今度は美術の面を考えています。門真に在住勤務の人から絵画を募集するなどして、実行委員会を作って担い手づくりもしていこうということですが、そういう形で民間の事業者や市民の皆さんと一緒に、この条例と基本方針の実現に向けて、段階を踏んでひとつずつ取り組んで進んでいこうとしています。「場づくり」と「担い手づくり」、継続した文化活動が展開されていくことが市として目標を持ってやっていることです。

**【木ノ下委員】**

分かりました。

**【清澤副会長】**

この場では門真の文化行政全体のあり方も議論できるということでもあるので、今日のこの具体的な事業を聞かせていただいた中で、特にトイボックスが説明された中で、最初の3項目は非常に大事なことだと思います。市の特性を踏まえながら事業を進めていくということ、それから市民中心ということですね。ただ、この条例を作ったときもそうだったのですが、基本的にこれをやると非常に時間がかかる、非常に地道な作業になるだろうと思います。アウトリーチなんかもこれからまだまだ何十年かけて進んでいくものだと思いますが、市の現状から見ますとそんなに時間をかけていいのかなという気がします。そ

それはそれで地道な歩みですが、しかしながら門真市の行政として、それだけでは駄目じゃないかと思うのですね。少し費用をかけてでもこの地域から発信できるようなものとか、あるいは市のイメージアップにつながるような文化事業というようなことも必要ではないかと思いました。今は基本的に市民中心、市民完結型ということで非常に内向きになっており、市の内部としてはそれなりに評価があるでしょうけれども、残念ながら外部への発信というのはできていないのではないのでしょうか。その辺は実際やっていて感じておられませんか。北河内全体の中で、また沿線全体や大阪全体でのルミエールホールのあり方はどうでしょうか。

【トイボックス】

まず貸館的な意味でいうと、小ホールが非常に使いやすいようです。北河内の中で、例えば 2 年前に守口市のさつきホールが浸水して使えなくなったとか、寝屋川市で耐震工事があったということもあって、他市の方が多く利用されたことをきっかけに、非常に人気があるホールにはなっています。逆に市が税負担している中で、市外料金が安すぎるのではないかという話があります。市外の人を使うことがどんどん増えたときに、元々採算割れする値段で貸しているのを税金で補填しているわけですから、そのあり方というのはどうなんだという考えはあります。それから文化芸術という意味合いにおいては、やはり時間がかかることをじっくりやっていかなければいけないと思っています。20 年経って人口が減っていく中で、正直言ってできることをやるしかないし、例えば、自分の子どもを豊かなまちで暮らさせてあげたいというお母さんたちが住みたくなるような意味での身近な文化芸術に親しめる環境があるということが非常に大事なのではないかなと思います。人口の自然減に対して焼け石に水ではあるのですが、それを目指さないと、市間の競争で頑張っても勝てないのではないかなという気はしています。

【清澤副会長】

ルミエールホールの運営からいいますと、今のような形である程度充実はしてきているなという感じは持っています。しかし、ロケーションの良さとか、そういうことからいうともっとやれるのではないかと思います。それをサポートできるような体制がないと難しいということでしょうか。

早川さんはいかがですか。

【早川委員】

今のお話で、貸館業としては安すぎるのではないかということをお話だったのですが、私はそれこそ税金で補填するよという市の決心があることが、木ノ下委員の求めておられる答えの一端ではないかと思いました。ここは赤字になってもいいのだ、利用者が増加してくれるほうがいいのだと、それによって市民が増えれば税収も増えるはずであるという、そういう決心をなさっているのは、私は評価に値すると思います。

【清澤副会長】

かなり手広くやっている中で、選択と集中みたいなことも必要かもしれないですね。

【トイボックス】

行政の仕組みとして、どうしても単年度での評価をしなければならないという中では、文化振興や生涯学習振興というのは、事業の性質的に正直難しい部分もあるのかなと思います。ただ、その中でもそれに合わせて、見えやすい成果を出すと同時に本質的な事業を頑張りたいと思っています。市のほうが予算を付けてくださるのであればそれは非常にありがたいですが、指定管理者をやって 3～4 年してから気付きましたが、門真市って実はかなり市民活動をされている方がいらっしゃるのです。そんな方々と一緒にできればより大きなことができるような気がしています。

【清澤副会長】

ホールとして、枚方市や寝屋川市や守口市などと横の連絡みたいなのはお持ちなのですか。

【トイボックス】

ゼロではないですが、あまりありません。どこの市も事業団がやっていたような時代に比べると連携は薄れているかなと思います。

【早川委員】

先ほどホールとしての評価は高いというお話でしたが、ここに来られた方はお手洗いに行ってがっかりなさったと思います。そこに関しては早急に改修の必要があると考えますがいかがでしょうか。

【登委員】

子どもさんを連れて使うのも大変かなと思います。鏡張りでせつかく綺麗なところから歩いてきて、ちょっと悲しいかなと。

【事務局】

このホールも現在、築 23 年経っておりまして、舞台機構など色々な改修を行わないといけない時期に差し掛かっています。今年度までに色々な調査を行わせておりまして、既にトイレの改修についてはご要望が多い案件であることから、トイレの洋式化であるとか、全面的に綺麗にしていこうと検討している最中でございます。

【早川委員】

この頃は色々新しいコンセプトのものがあ、トイレで話題になっても集客力はあがると思います。

【清澤副会長】

今年度の会議は今回と、来年の 1 月にもう 1 回あるんですね。基本方針の変更に向けてということで、そういう中で審議会としてどういうものを今年提言していくのかということの中に、今日のような議論の趣旨を少し入れていただくことも大切かと思えます。そんな点で、行政の関わりやシート全体の進捗状況の確認も具体的にしていけたらと思えます。ルミエールホールの分については結構ハッキリと現状が分かったような気はしますが、その他の部分もありますので、事務局で考えておられることがあれば、そういうものも含めて次回色々聞かせていただけたらどうかと思えます。

【木ノ下委員】

先ほど市としての方向性で、この大分類における 3 つの視点、協働によるということと、場づくりと、文化芸術の担い手づくりの 3 つを挙げておられたと思えますが、一方で、作り手が多くなればなるほど鑑賞者が衰退していくという現象があります。能動的な行動には作るだけでなく観るという能動性、あるいは鑑賞者を作るっていうことの能動性があると思うんです。ややもするとやりたい人が多いけれども観る人が少ない、分母と分子が入れ替わっていく現象というのが文化事業では懸念されています。事業の内容とか質とかは頑張ってることを置いておいたとして、このままずっと市民活動の推進ばかり続けていくことに危機感を少し感じられたほうがいいのではないかなと思えます。ですので、自分が能動的なプレイヤーにならなくても、観ることがとても重要な参加態度だということを促すような事業あるいは施策が 1～2 個ないと、やや危険な感じがするなと私は思います。ですので、次の 10 年を見据えるのであれば、やはり鑑賞者教育であったりとか、それに値する事業の推進について、例えば財源の確保であったりとか、人材の設置だったりとか、そういったものをもう少しだけ伏線としてそろそろ始められてもいいのかなという気はします。

【清澤副会長】

中塚荘に布施コレクションというものがありますよね。これは民芸では非常にレベルの高いコレクションだと思うのですけれども、展示されていることはされているものの、残念ながらそれに対してコメントできる館の方がおられなかったり、説明も十分ではなかったりするんで、ちょっと宝の持ち腐れみたいな感じを持っています。立派なコレクションだと思うので、あれをもう少し活かせるようにというのは問題意識としてお持ちでしょうか。

【トイボックス】

うちの団体にも学芸員はいるのですが、専門分野が違うんです。なかなか情報発信して、皆さんに見ていただくところまでいっていません。入れ替えをするのも正直怖い部分もありまして、1 年に 1 回くらいできればいいかなというような形に留まってしまっています。

【清澤副会長】

ボランティアでもいいですし、何かそういう方にしてもらえたら非常にいいのではないのでしょうか。かなり値打ちのあるコレクションだと思います。全部は出しておられませんよね。

【トイボックス】

スペースや作品のバランスがあるので展示しきれないものもあります。今後考えます。

【清澤副会長】

民芸協会とか、ああいう方がボランティアでおられるといいのですが。門真市の場合はあまりおられないのでしょうか。

それではそろそろまとめたいと思いますがどうでしょうか。大体トイボックス自身のご説明の中で、ルミエールホールと中塚荘の現状に対して大まかな意見が出ました。それからもう少し限定的なところで、指定管理とはいうものの、行政としての方向性を再確認する必要があるのではないかというようなこと。それから担い手づくりとして、作るほうだけではなく鑑賞者を養成していくことも非常に大事であるという意見もありました。また、施設改修の部分で、現状これではと思われるところも何点か意見が出ていたと思いますが、そういう部分についてご検討いただけたらと思います。

登さんも具体的に何かないですか。

【登委員】

私は中塚荘がお気に入りですけど、ウエディングとかは全然考えてないですか。

【トイボックス】

数年前にウエディングで全館貸しをする、レストラン喫茶店を誘致するという発想を持って市にご提案する検討をしたのですが、レストランウエディングの業者と下打合せをした中で、やはり半年以上前から予約が取れない場所というのは適してないということでした。中塚荘の場合は条例で3か月前からの予約ということになっていて、そこが最大のネックということでそのまま保留になっています。また、条例改正も含めて、タイミングを見てご提案していきたいなとは思っています。

【早川委員】

中塚荘は、土日はそんなにお客さんが多いんですか。

【トイボックス】

利用は多いですね。サークル活動がかなり活発になってきましたので。

【早川委員】

神社なんかは、半年前、1年前から予約しても参拝客はぞろぞろいるわけでしょ。だか

ら、そういうところでなさる方は全然平気なのではないですか。

**【トイボックス】**

利用者は基本的にOKなのですが、条例上 3 か月前にならないと結婚式の業者さんが部屋を押さえることができません。ですので、そういう方に営業をかけて使ってくださいと言っても、3 か月前まで全館貸切で部屋を押さえることができないんです。もしくは、全館貸切といっても共用部は専有ができないので、結婚式をしている最中に子どもたちが大声で駆けずり回るとかいうのを今の条例では防げないのです。

**【登委員】**

結婚式って司会者雇うだけでもものすごく高いんです。だからちょっとでもリーズナブルなものが挙げられたら良い思い出作りにもなると思います。

**【清澤副会長】**

多様な使い方ということですね。またご検討いただきたいと思います。

以上のようなところを一度まとめて、また市の内部でもご報告いただきたいと思います。

それでは、次回の審議会について、事務局からご連絡をお願いいたします。

**【事務局】**

次回の審議会は、1 月 24 日（火）午前 10 時から、門真市民プラザの 2 階にあります生涯学習センターの第 1 会議室で行う予定です。

案件につきましては、門真市民プラザ、公民館、文化会館の行う事業について検証するほか、29（2017）年度以降の審議会の方向性についてご検討いただきたいと存じます。

会場が駅から遠いため、古川橋駅より送迎をいたしますので、希望される方は事務局へご連絡いただきますようお願いいたします。

**【清澤副会長】**

ありがとうございました。他にご質問やご意見はございませんか。

それでは、これで平成 28（2016）年度第 1 回門真市文化芸術振興審議会を閉会します。